

民医連厚生事業協

共済だより

2024年
8月
第196号

発行所●全日本民医連厚生事業協同組合

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター6F

TEL03-5842-5650 FAX03-5842-5652

E-メール:k-tayori@min-iren.gr.jp
(共済だより用)

kyousai@min-iren.gr.jp

(厚生事業協宛)

ホームページ:<https://min-jigyo.or.jp>



いわさきちひろ「緑の風のなかの少女」(1972年) (14ページに作品のコメントと美術館のご案内をしています)

主な記事

全日本民医連厚生事業協同組合2024年度通常総代会開催

シリーズ 気候問題を考える⑦ 核廃絶と気候正義／武本 匡弘

いま、なぜ憲法改悪なのか パートⅡ⑫⑦ 若手弁護士の会

縮図からみる世界⑦⑤ 佐々木朗希投手をめぐる動静／斎藤 貴男

私の趣味・こだわり紹介⑥⑥ 普段着物生活／長野・春音^{ペンネーム}

⑥⑦ 多肉植物／京都・F^{ペンネーム}

女スポはじまる!!

2024年度
スポーツ文化企画
のお知らせ

<https://www.min-jigyo.or.jp>

※QRコードは上部にあります。

核廃絶と気候正義



ルニットドーム

プロダイバー・環境活動家・NPO気候危機対策ネットワーク代表理事 **武本 匡弘**



(財)日本自然保護協会自然観察指導員
日本サンゴ礁学会会員
グリーンピースジャパンアンバサダー
(財)第五福竜丸平和協会 協力会員



フェイスブック



インスタグラム

うでしょう。

たまたま、マーシャル諸島の首都マジュロに滞在中に、アメリカのコロンビア大学が船をチャーターしてこの周辺海域の汚染調査を行っている場に出会いました。

後の発表によると、核実験から60年以上が経過しているにもかかわらず、実験が行われたマーシャル諸島の4環礁の放射線量が、今でも警告レベルにあり、一部地域で観測された値は、放射線漏れが発生したチェルノブイリや福島原子力発電所の周辺で観測された値の10倍から1000倍以上であったということでした。

海面上昇が加速し、遙か太平洋の小さな環礁島から海へ、そして地球全体を汚染するという恐ろしいことが、皮肉なことに気候変動とともに静かにそして確実に進行しているのです。

世代を超える傷跡

ビキニ水爆被災から70年の今年3月、原水爆禁止日本協議会（日本原水協）代表团とともにマーシャル諸島を訪問しました。

左の写真はその時に同行した医師とともにビキニ島民が避難している島「エジット島」で島民への健康診断と聞き取り調査等を行っている様子です。

気候変動による汚染拡大

万5千年も先のことなのです！

放射能が海に漏れ出しているのではないかと懸念され、さらには気候変動による海面上昇により沈みゆく運命にある太平洋の孤島で、このドームもいずれ水中に没してしま



健康診断 早川純午医師（愛知・名南会）

これまで何度も訪れているこの国で、あらためていまだに健康障害に苦しむヒバクシャや2世、3世たちの健康への不安は消えていないという現実を知りました。

さらにはもう70年も故郷の島に帰れず、避難生活を送っている小さな島も

やはり浸食がひどく、大潮の満潮の際には島の中心にまで海水が上がつてきているのです。

避難先の島でさえ住めなくなっている現状にあるビキニの人たち。正に彼らは「核の難民」であるとともに「気候難民」にもなりつつあるのです。

核廃絶と気候正義

「これまで平和運動をした経験など全くない」「こういう人たちにどう訴えていくか？ いやできれば同じ志を持った仲間となりいっしょに行動して欲しい」。

私にとって、NPO気候危機対策ネットワークはそのような思いを込めて立ち上げた新しい環境NGOです。つまり、気候問題を包括的にとらえる」と核廃絶平和運動と気候危機に立ち向かう行動とは全く同じであり、同時に進めるべきものだというアピールでもありました。

設立4年目を迎える今、ロシアによるウクライナへの侵攻、そしてイスラエルによるパレスチナへの暴虐が続いています。

実は、国内ではあまり報道されていませんが、スウェーデンの気候活動家グレタ・トゥーンベリさんは、いち早くイスラエルへの抗議を表明しました。それは、イスラエルのパレスチナへの歴史的な経緯から、今日までの蛮行の源流は、植民地主義と人種差別（アパルトヘイト）に他ならないというものでした。

まさに、たった10カ国ほどの経済大国が排出している過剰な二酸化炭素等が原因による気候危機が、グローバル

サウスの多くの国々に犠牲を強いているという図式、つまり気候危機も「植民地主義」と「人種差別」によって引き起こされているということになります。

さらにはつきりしたことは「核抑止論」という欺瞞。ロシアは世界最大の核保有国であり、イスラエルは中東で唯一の核保有国です。皮肉にも彼らがここで証明したことは、核兵器は他国を脅し、侵略するためのものであり「抑止でもなんでもなし」ということです。

連帯

私たちは今「憲法9条の碑を建立する会」を立ち上げ、そして地元に住む広島、長崎での被ばく者とともに「核兵器禁止条約を日本政府も批准すべき決議」を議会に求める運動を行っています。このメンバーの多くはこれまで平和運動など一度も経験したことがない人たちです。もちろん、核廃絶平和運動に長く取り組んでいる「市民運動の大先輩」である70代、90代の方たちもいっしょです。

お互いが、その年齢差に驚いたり喜んだりしながら連帯を深め、全人類の課題に挑んでいます。そして、そこで合言葉は「核廃絶と気候正義」なのです。

（続く）

南西諸島の自衛隊配備が進み沖縄の「要塞」化が止まりません。沖縄を再び「戦場」にするつもりなのか、という不安と怒りは増すばかりです。しかもその自衛隊が、戦前の日本軍と同じ世界観で動く組織と化しているとすれば――

1. 自衛隊員の靖国参拝

今年、陸上・海上自衛隊の隊員が集団で靖国神社を参拝していたことが相次いで発覚しました。

(1) 陸上自衛隊員らの参拝

1月9日、陸上幕僚監部のナンバー2である幕僚副長ら隊員22名が、事前の実施計画の下、集団で靖国神社を参拝しました。参拝者は玉串料も奉納し幹部3名は公用車を使用しました。防衛省は公用車使用を不適切として幹部3名を訓戒処分しましたが、参拝自体は「私的参拝」として禁じられた部隊参拝ではないと認定しました。

(2) 海上自衛隊員らの参拝

海上自衛隊でも、昨年、練習艦隊司令官はじめ初級幹部ら165人が航海に先立ち靖国神社を制服で参拝したことが明らかにになりました。海上幕僚長はこの件について「個人が自由意思のもとで私的に参拝した」と述べ強制ではないと主張しています。しかし同神社の社報は、練習艦隊の航海が「今回で67回目となる。

シリーズ

いま、なぜ憲法改悪なのか **パートII**

⑫7 危うい「自衛隊員の集団靖国参拝」



「明日の自由を守る若手弁護士の会」共同代表 **黒澤いつき**
公式ブログ <https://www.asuno-jiyuu.com/>



出発前には当神社へ正式参拝に訪れている」と記しており、参拝の慣習化をうかがわせます。

2. 政教分離、特に靖国神社との決別

憲法20条は政教分離の原則（国家権力と宗教のかかわり合いの否定）を定めています。日本においては、特に神道（国家神道）との関係が常に気になります。

明治政府は、天皇を頂点とした大日本帝国の侵略戦争・アジアの植民地化を進めるために、神道を「国家神道」として事実上の国教にし国民に天皇への忠誠を教

育しました。なかでも靖国神社は、戦死した軍人・軍属を「天皇のために命を捧げた軍神」として祀る軍事的宗教施設で、A級戦犯14人をも「英霊」として祀り、

いまだに侵略戦争を「わが国の自存自衛のための戦いだった」と美化しています。民主主義国家として再生した日本が、こ

うした神道や靖国神社と権力とが再び接近しないよう、防衛省も通達（1974年）で部隊参拝や隊員への参拝の強制を禁じているのです。

これら参拝について、陸上・海上自衛隊はともに「私的な参拝」と主張しますが、恒例化していた点や、事前の計画性などからして組織的なことは明らかで、

厳格な上下関係が貫く自衛隊において上

官の誘いを断ることは極めて難しく、事実上の命令だととらえるべきでしょう。これは通達に違反し政教分離原則に違反する部隊参拝ではないでしょうか。

3. 自衛隊と旧日本軍の一体化

また自衛隊は、戦力不保持（9条）を宣言した憲法の下で、軍隊とは異なる、

ましてや戦前の日本軍とはまったく別個の組織「防衛力」として設立されました。

当然、自衛隊員も平和憲法を遵守し、戦力ではないという自覚を持って職務に当たる義務があります（99条）。

その自衛隊員が、軍神を祀る靖国神社を参拝することは、自衛隊員がもはや「旧日本軍の精神を受け継ぐ組織」という意識であると受け取らざるを得ません。

4. きっぱりと決別を！

今年3月からは、元海上自衛隊海将が靖国神社の宮司に就任しました。

自衛隊が侵略戦争を美化した宗教施設へ集団で参拝し、また旧日本軍にルーツを求めつつあることは、憲法上まったく許されないことです。「戦力ではない」

からこそ市民が寄せてきた信頼や、植民地だった国々からの信頼も失いかねない危険もはらみます。この問題をうやむやにせず、組織的なかわり合いを厳格に禁じるよう声をあげませんか。

シリーズ

縮図からみる世界【75】

斎藤 貴男



佐々木朗希投手をめぐる動静

野球漫画の金字塔『巨人の星』（原作・梶原一騎、画・川崎のぼる）のワンシーンをふと思い出した。

夏の甲子園大会の決勝戦。主人公の星飛雄馬は、利き手の負傷で得意の豪速球を投げることができず、のりくらりと躲すピッチングを続けていた。宿命のライバル・花形満が打席に立った。こんな状態で通用する相手じゃない。

——いっそ負傷の事実をぶちまけて、降板してしまおうか。控え投手の力では乱打され、敗けるに違いないが、自分の評価は落ちない。おれの夢は『巨人の星』であって、高校野球は言わば手段に過ぎんのだし…。

が、たちまち我に返った。眼前の花形の、ただこの一瞬に全力を尽くすことに集中した澄み切った目が、小賢しい計算を赦してくれなかった。

「お：おれはいま 最低なやつになろうとしていた！ そのとき そのときに全力をつくせぬやつに なが未来だ ゆめだ！ 巨人の星だ！」
己を恥じて飛雄馬は、今の自分にできる唯一の対抗策を採った。敬遠——。

思い出したのはキッカケがある。プロ野球・千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手（2001年生まれ）をめぐる動静だ。MAX165km/hの超快速球でプロ野球史上最年少（20歳5カ月）の

完全試合、13者連続三振の世界記録などの偉業を次々に達成してきた若き剛腕の評判が、このところ芳しくない。

やたら登板を回避しては一軍登録を抹消され、を繰り返す。今オフにも米国メジャーリーグに移籍したい意向が広く知られているだけに、もはや国内でなんかやってられないよ、ということではないかとする見方が専らなのである。

ファンの中で、だけではない。往年の名捕手で、マリーンズの監督も勤めた評論家の伊東勤氏も、ユーチューブで、「なんか見ててちよつと残念。いったいどこを見てやっているのか。まずはチームのためでしょう。1人だけ蚊帳の外というのは困る」と語っている。

筆者自身は何事かをコメントできる立場にないと自覚している。実際、プロの投手には外部からは窺い知れない事情がないとも限らない。

ただ、これだけは言える。少年時代に飛雄馬のあの言葉に打ちのめされてよかった。これを書いたらあそこの編集長に嫌われそうだが、あの雑誌からはもう仕事をもらえなくなるかも、などといった計算を優先して、今やるべき取材を避けて通る、なんてことだけはしないで来れた自負があるから。

斎藤 貴男（さいとう たかお）

1958年東京生まれ。早稲田大学商学部卒。英国バーミンガム大学大学院修了。主な著書に『驕る権力、煽るメディア』『決定版 消費税のカラクリ』『いちばんたいせつなもの』『マイナンバーが日本を壊す』『マスゴミって言うな！』『こんな部活あります 正射必中！弓道部』（2024.3）など。

